

目指す姿・基本理念

目指す姿 スポーツを通じて健やかで心豊かに、支え合いながら生き生きと暮らすことのできる社会

基本理念 (1)将来にわたって誰もがスポーツに親しみ夢や志を育むことができる環境をつくる
(2)スポーツの価値や魅力を通じて活力ある地域づくりにつなげる

施策の方向性ごとの主な取組及び成果・課題

柱	施策の方向性	主な取組	取組目標や主な指標の状況 〔 目標の達成状況 〕 S:達成率110%以上,A:100%以上,B:80%以上,C:60%以上,D:60%未満	主な成果・課題	次期計画策定に向けたポイント																								
柱1 スポーツ参加の拡大	① 新たなスポーツ推進体制による持続可能な地域スポーツの推進	○多分野の関係者が地域の課題やニーズに対応し、子どもや障害者スポーツ等のスポーツサービスを提供する地域スポーツハブの取組 ○スポーツ体験イベントの開催 ○障害者とスポーツ活動のマッチング ○障害者スポーツの理解啓発 ○リモートによるスポーツ機会の提供 ○健康パスポートを活用した運動促進	■取組目標 <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組目標</th> <th>改定当初</th> <th>R1</th> <th>R3</th> <th>目標の到達状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成人の週1回以上のスポーツの実施率を65%以上</td> <td>44.3% (H28)</td> <td>-</td> <td>51.0%</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>スポーツ観戦に関心がある者の割合が増加</td> <td>61.4% (H28)</td> <td>-</td> <td>74.8%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>スポーツに関するボランティア活動を行っている者の割合を10%以上</td> <td>4.0% (H28)</td> <td>-</td> <td>2.2%</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table> ■主な指標等 ○1週間の総運動時間60分未満の児童生徒割合(R3)〔 〕は全国 小5男8.9%〔8.8%〕、小5女14.1%〔14.4%〕 中2男8.0%〔7.8%〕、中2女19.6%〔18.1%〕 ○障害者スポーツへの関心度(R3) 関心がある47.9% 関心がない・あまりない38.0% ○スポーツ実施率(地域別) 安芸40.7%、香美香南48.2%、高知市51.8%、土長南国54.3%、吾川49.2%、幡多50.3%	取組目標	改定当初	R1	R3	目標の到達状況	成人の週1回以上のスポーツの実施率を 65%以上	44.3% (H28)	-	51.0%	C	スポーツ観戦に関心がある者の割合が 増加	61.4% (H28)	-	74.8%	A	スポーツに関するボランティア活動を行っている者の割合を 10%以上	4.0% (H28)	-	2.2%	D	■成果 ○子どもの運動習慣や成人のスポーツ実施率が改善(スポーツを「する」割合が増加) ○スポーツを「みる」ことを楽しむ割合が増加 ○地域スポーツハブの活動が9拠点に広がり、地域住民の課題を捉えた新たな活動が増加 ○障害者スポーツへの関心がある層の割合がない層の割合よりも高い ■課題 ○子どもの運動習慣や成人のスポーツ実施率の割合をさらに高める必要がある ○地域によってスポーツ実施率に差がみられる ○スポーツを「ささえる」活動が減少している	【ポイント①】 地域におけるスポーツ推進体制の充実 【ポイント②】 身近な地域で気軽にスポーツに親しむことのできる環境づくり(子ども・障害者) 【ポイント③】 障害者スポーツのさらなる推進 【ポイント④】 地域におけるスポーツによる健康増進の取組の推進				
	取組目標			改定当初	R1	R3	目標の到達状況																						
	成人の週1回以上のスポーツの実施率を 65%以上			44.3% (H28)	-	51.0%	C																						
	スポーツ観戦に関心がある者の割合が 増加			61.4% (H28)	-	74.8%	A																						
	スポーツに関するボランティア活動を行っている者の割合を 10%以上			4.0% (H28)	-	2.2%	D																						
	① 新たなスポーツ推進体制による戦略的な競技力強化			○全高知チームによる重点強化 ○特別強化選手への支援 ○スポーツ科学センター(SSC)によるスポーツ医科学サポート ○公認指導者資格者の養成	■取組目標 <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組目標</th> <th>改定当初</th> <th>R1</th> <th>R3</th> <th>目標の到達状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国民体育大会の総合順位を30位以内</td> <td>47位 (H29)</td> <td>46位</td> <td>未開催</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>国民体育大会の獲得競技得点が900点以上</td> <td>552点 (H29)</td> <td>630点</td> <td>未開催</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>日本を代表する選手等の輩出人数が40人以上</td> <td>35人</td> <td>31人</td> <td>9人</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table> ■主な指標 ○全高知チーム数：2団体(H29)→15団体(R3) ○育成プログラムによる強化実施団体：0(H29)→47競技(R3) ○公認指導者数：1,237人(H29)→1,371人(R3) ○SSC活用競技(体力測定と各種サポートの両方を活用)：13競技(R1)→15競技(R3)	取組目標	改定当初	R1	R3	目標の到達状況	国民体育大会の総合順位を 30位以内	47位 (H29)	46位	未開催	-	国民体育大会の獲得競技得点が 900点以上	552点 (H29)	630点	未開催	-	日本を代表する選手等の輩出人数が 40人以上	35人	31人			9人	D	■成果 ○全高知チームにおいて重点的な強化が進んでいる ○競技ごとに育成プログラムに基づく計画的な強化が定着してきている ○コロナ禍においても公認指導者数が増加 ■課題 ○組織的な取組の質を高めていく必要がある ○全国大会等の入賞などの結果が出ている競技は限定的 ○スポーツ指導者の確保及び資質向上 ○スポーツ医科学を積極的に活用する競技団体をさらに増やす必要がある	【ポイント⑤】 競技団体における取組の質的充実 【ポイント⑥】 指導者の育成・確保
	取組目標					改定当初	R1	R3	目標の到達状況																				
国民体育大会の総合順位を 30位以内	47位 (H29)	46位	未開催			-																							
国民体育大会の獲得競技得点が 900点以上	552点 (H29)	630点	未開催			-																							
日本を代表する選手等の輩出人数が 40人以上	35人	31人	9人			D																							
② 系統立てた育成・強化体制の確立																													
③ 指導者等の育成及び受け入れの推進																													
④ スポーツ医科学の効果的な活用																													
⑤ スポーツ施設・設備の整備																													
柱3 スポーツを通じた活力ある県づくり	① スポーツを通じた経済・地域の活性化	○プロやアマチュアスポーツの合宿・大会の誘致 ○自然環境を生かしたスポーツツーリズム ○高知龍馬マラソンの開催	■取組目標 <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組目標</th> <th>改定当初</th> <th>R1</th> <th>R3</th> <th>目標の到達状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県外からのスポーツによる入込客数が14万人</td> <td>8.8万人 (H29)</td> <td>9.8万人</td> <td>1.1万人</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table> ■主な指標 ○アマチュアスポーツ合宿を実施した団体の所在地域(R1) ①関西:68% ②関東:11% ③東海:7% ④中国:7% ⑤四国5% ○アマチュアスポーツ合宿受入れ施設(R1) 受入れ数上位6施設が全体の約7割を占める	取組目標	改定当初	R1	R3	目標の到達状況	県外からのスポーツによる入込客数が 14万人	8.8万人 (H29)	9.8万人	1.1万人	D	■成果 ○新たなトップチームの合宿受入れが実現している ○新たな連携協定による取組が進んでいる ■課題 ○コロナ禍において県外からの入込客数が大きく減少 ○スポーツ合宿が一部の地域・施設に集中している ○県内の多様なスポーツ資源のさらなる活用が必要	【ポイント⑦】 市町村や民間団体等と連携したスポーツツーリズムの推進 【ポイント⑧】 県内のスポーツツーリズム資源の掘り起こし・磨き上げ														
取組目標	改定当初	R1	R3	目標の到達状況																									
県外からのスポーツによる入込客数が 14万人	8.8万人 (H29)	9.8万人	1.1万人	D																									
オリパラ等を契機としたスポーツの振興	○東京2020大会事前合宿の受入れ ○聖火リレーの実施 ○ラグビーWC2019の事前キャンプの受入れ	○東京2020大会へ出場した本県選手:4名 ○事前合宿国(直前合宿):2カ国5競技58名(チェコ、シンガポール) ○交流実績のあるホストタウン登録国→6カ国 ○聖火リレー実績:19市町村21か所、ランナー175名 ○ラグビーWC2019の事前合宿国:トンガ王国	■成果 ○ホストタウン登録国との新たなネットワークが生まれた ○ラグビーにおけるトンガ王国とつながりが深まった ■課題 ○東京2020大会等のレガシーを今後のスポーツ振興等につなげていく必要がある	【ポイント⑨】 パリ五輪・パラ等世界で活躍する選手の輩出 【ポイント⑩】 スポーツを通じた国際交流の継続・発展																									